

## 建築展 2012～建築の未来の創造～

建築学科 4年 代表者 上菌 修平  
担当教員：桂 英昭

### 1. はじめに

建築学科では毎年3年生が中心となり、建築展という学生有志による展覧会をおこなっている。今年の建築展の立ち上げにあたり、例年行われた、コンペ、1/1の作品展示ではなく、学生の創造性豊かな発想を十分に発揮し、新しい建築を創造し、そのビジョンを具体的に表現したいと考えた。

### 2. 目的

建築学科では毎年3年生が中心となり、建築展という学生有志による展覧会をおこなっている。今年の建築展の立ち上げにあたり、例年行われた、コンペ、1/1の作品展示ではなく、学生の創造性豊かな発想を十分に発揮し、新しい建築を創造し、そのビジョンを具体的に表現したいと考えた。

### 3. 実施概要

11月2日から11月4日までの3日間に行われた学園祭に4つの建築(地上、地下、海上、宇宙)の展示を6階製図室を使って行った。

それぞれの建築において新しい都市を考えることで、これからの私たちの未来や生き方を想像し、そのビジョンを来場者の方々に見ていただき、未来を考えるきっかけをあたえられるような展覧会を目指した。

建築展参加メンバーを4つの班に分け、ディスカッション、模型製作、パネル製作を主体にそれぞれの班で未来の建築像を創造した。

### 4. 組織表

#### ・企画部

〈建築展実行委員長〉	上菌修平	
〈副委員長〉	草野共栄	富松直貴
〈会計委員長〉	堀端光	
〈記録委員長〉	河野志保	
〈広報委員長〉	松尾悌弘	
〈事務委員長〉	金子美奈	

#### ・会計部

〈部長〉	堀端光
〈部員〉	桑原美里 渋谷明日香

#### ・記録部

〈部長〉	河野志保
------	------

〈部員〉 室積拓実

#### ・広報部

〈部長〉 松尾悌弘  
〈部員〉 島田元 安川晃生 菊池悠加 山領夏実

#### ・事務

〈部長〉 金子美奈  
〈部員〉 渋谷明日香

#### ・映像部

〈部長〉 末次 周

#### ・企画部

〈部員〉 安部匠 大久保宙 金子美奈 河野志保 菊池悠加 桑原美里 島田元 末次周 豊田透真 入田徹 堀端光

### 5. プロジェクト

#### 《展示の内容》

#### ・パネル, 模型の展示

4つの地上、地下、宇宙、海上の班に分かれ、それぞれの班が考案した、建築をパネルにまとめ展示を行なった。より来場者の方々にわかりやすいように巨大模型の展示も行った。

#### 巨大模型の製作

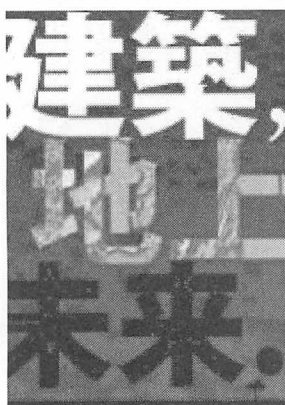
それぞれ4つの班で未来の建築の未来像をより来場者の方々にわかりやすいように巨大模型の製作を行なった。



地上班

地上建築班は人類の『高さへのあこがれ』というテーマにおいて未来の建築を考えた。これまでは権力、富、発展の象徴として高い建物を建ててきたが、今回地上班が考えた地上建築は、高さ 6000 メートルの密集した都市で木をモチーフにした巨大建築の中で人々は社会生活を営む。すべての都市機能を集約した建築。効率化を極めた、究極のコンパクトシティを考えた。

パネル.1



パネル.2



パネル.3



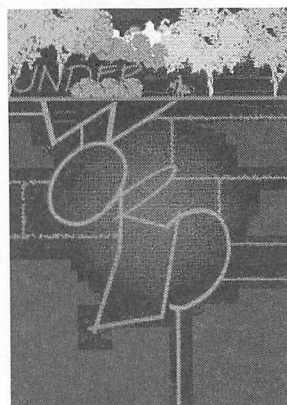
パネル.4



・地下建築

私たちが住む大地に一番近いはずの地下には人は棲もうとしなかった。日本の防空壕、ヨーロッパのカタコンベなどシェルターとして地下に潜るための地下空間はあったものの大規模な都市という空間はつくられていない。実際に作ろうと試みたという事例はあったが、どれも失敗に終わっている。地下建築班はこれから、そんな住居空間として半ば諦められている地下に居住空間を提案する。

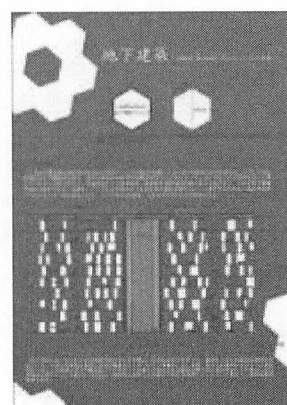
パネル.1



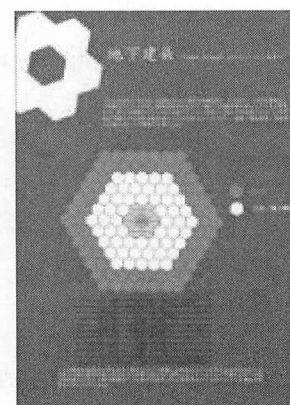
パネル.2



パネル.3



パネル.4



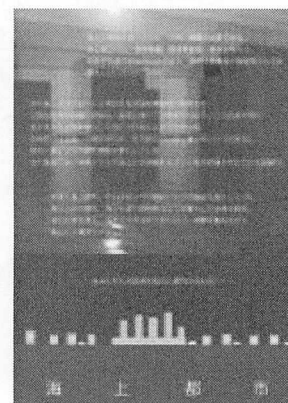
・海上建築

海上建築班は海の上に陸とかけ離れ、なおかつ海という環境に適した建築は可能かというテーマをもとに考えた。未来の海上都市、それは地上の穴埋めとしての機能を果たしつつも、地上とかけ離れ、海上を漂う遊牧民のような暮らしができる都市。海の生命を育て、海からエネルギーをもらい、移動を重ねながら海という環境と共存していく。

パネル.1



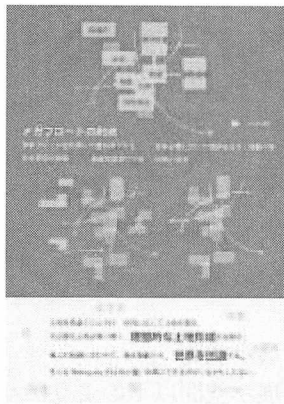
パネル.2



パネル.3



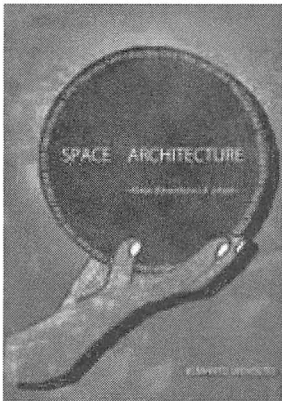
パネル.4



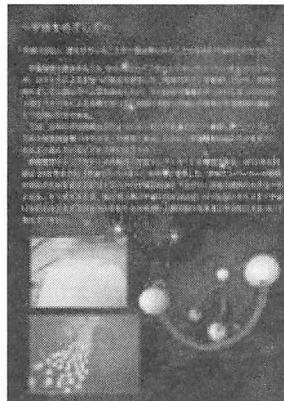
・宇宙建築

宇宙建築班は近年の宇宙開発の進歩を読みながら、誰もが一度は夢見た『宇宙に住む』テーマをもとに宇宙都市の形成を考えた。宇宙という人が住むには過酷な環境下のなかで人々がどのような形で宇宙に存在しうるかを考え、宇宙と人類の未来の都市像を創造した。

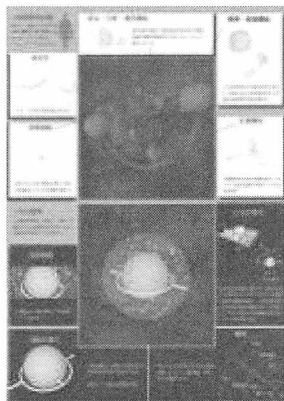
パネル.1



パネル.3



パネル.3



・文字の間

4つの建築を考え、それぞれを照らし合わせ、生まれた疑問点や、問題点をディスカッションしていく中で出てきた言葉を展示した。未来について考えていく中で私たちが携わっている建築というものが社会的な問題や時代の移り変わり、技術などに関係していることや、果たして私たちが考えるような建築が今後現れるのか？など4つの建築を照らし合せ私たちの本音を建築的視点からではなくあらゆる分野の視点から未来というものについて考えていった。その過程の展示を行う空間を作った。こうすることで来場者の方々が私たちの創造した4つの建築の理解や、建築に対する理解が深まった。

写真.1



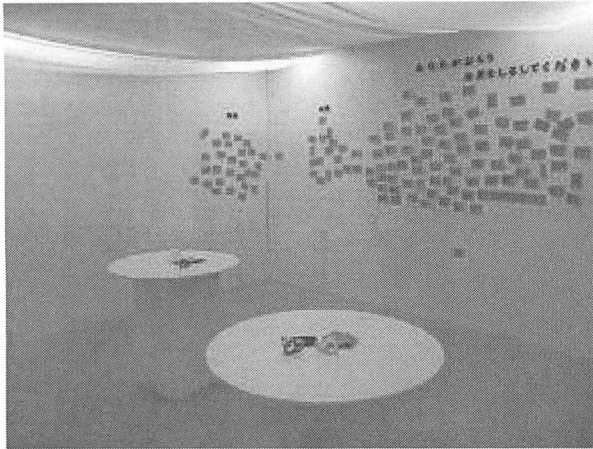
写真.2



・白の間

白の間では来場者の方々にも参加してもらえるような空間を作った。展示会を通して、考えてもらったこと、また来場者の方々が持っている未来に対する考えを分野別に分けて展示を行なった。各々の人たちがもつ未来というビジョンを共有することができるような展示をした。建築、日本、技術、就活にたいしてとさまざまな意見や考え方が展示された。

白の間写真



以下は白の間で出た意見の一部である。

日本

- ・ 輸入してきたシステムが文化となるか障害となるか
- ・ 原発・娯楽文化。
- ・ 先進国・日本に生まれてよかった。
- ・ 国民一人ひとりが賢くなって主体性を持つべき。

建築

- ・ 私が思う未来は手遅れのように、いま始まった感じがするものです。ずっとそんな感じがつきそう。
- ・ 持続可能な社会を作ること。
- ・ 価値観が原点回帰し、要否の判断が変化してシンプルな世界になる
- ・ 技術と建築の関係。

技術

- ・ 寿命を考える
- ・ 進化の中にも原点回帰
- ・ 様々な分野と連携した教育
- ・ 技術は活かさなければ意味がない
- ・ 人は宇宙と共存できる・今後の進歩は発展ではなく後退ではないのか？
- ・ 自然との共存
- ・ 未来はそれぞれの世代がつくるのではないのか？
- ・ 技術におわりはない。

就活

- ・ 就活に乗り遅れると日本じゃおわり。
- ・ 今の状態はおかしい。
- ・ 次世代教育。

・ 学生が就活を利用するのではなく、企業が学生を「就活」という形で支配している。

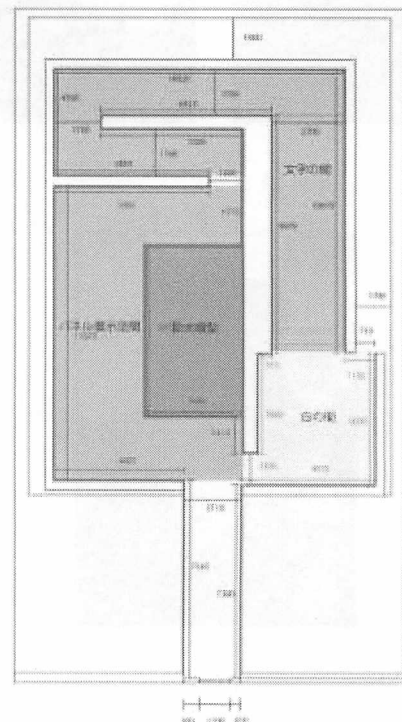
- ・ 運。
- ・ 不安。
- ・ 社会は甘くない。
- ・ 生きがいのある職につきたい。
- ・ 実力主義、受かる人はどこに行っても受かる、その逆もしかり。
- ・ 分岐点

・ 展示空間

展示空間以下のようにパネル展示空間、文字の間、白の間の3つの空間に分けて製作した。はじめに私たちが考えた未来の建築についてパネルと巨大模型を照らし合わせながらみてもらえるような空間を設置した。文字の間は通路状にし、入ってから出るまでで一連の流れをつけ展示を行なった。白の間では紙に書いてもらった意見を壁に書いた題目ごとに分け展示を行なった。

6. 展示空間

展示空間以下のようにパネル展示空間、文字の間、白の間の3つの空間に分けて製作した。はじめに私たちが考えた未来の建築についてパネルと巨大模型を照らし合わせながらみてもらえるような空間を設置した。文字の間は通路状にし、入ってから出るまでで一連の流れをつけ展示を行なった。白の間では紙に書いてもらった意見を壁に書いた題目ごとに分け展示を行なった。



## 7. 来場者意見と成果

- ・すごかった
- ・みんなの考えた過程を読んで、わたし自身の答えも出してみたいと思った。
- ・圧倒された
- ・共感できる言葉がおおくて面白かった。
- ・模型のスケールがでかくてすごかった。
- ・想像以上でびっくりした。
- ・言葉が印象的であった。
- ・細かい作業で、製作に大変時間がかかったのではないかと思います。
- ・創造性豊かな建築物に大変刺激を受けた。
- ・学生さんたちの「今」をよく理解できた。
- ・いろいろなことを考えさせられました。
- ・建築の理論やデザインなど考える過程が非常に興味深く面白かった。
- ・建築の可能性はまだまだあると思った。
- ・幻想的で良かった。
- ・迷っている感じがよかった。
- ・ひとつひとつの言葉にグッときた。
- ・来年自分たちが作るとおもったらたいへんだった。
- ・いつもと違った展示で面白かった。答えの出ない問いをひたすらに考えることは大切だと感じた。
- ・話合いの過程で出た意見を無駄なくいかしているところがよかった。
- ・これからの未来についてしっかりと考えさせられた。
- ・今年はアート色がつよかった。
- ・さまざまな分野からの視点がよかった。
- ・未来について考えるきっかけになった。
- ・壁の言葉一つ一つにストーリー性があって面白かった。

### 悪い意見

- ・もう少し体験型のものがあればいいと思った。
- ・インパクトが薄かった。
- ・文字が多すぎてめまいがした。
- ・もっとどんな生活をしているかまで踏み込めるとよかった。
- ・体験型のものにして欲しかった。
- ・大きなテーマもう少し討論が積まれると良かった。

## 8. 建築展 2012 を通して

『未来について考える』というテーマに対して4つの建築を創造し、それぞれを照らし合わせることで私たちの建築の本質に迫ることができた。また未来というものは考えれば考えるほど難しいものであり、日々のディスカッションの中で行き詰まり、『はたし

て本当に良い未来なのであろうか?』という疑問と常に向き合っていた。その中でも自分たちが想像する『未来』というビジョンをもち、それを創造し他者に見せることの難しさを知ることができた。来場者の方々とはこの展覧会を通して私たちが未来について考えたことを建築だけの目線からではなくあらゆる方向性から考えていく過程を示したことによって建築とは様々な分野の知識や理解がいるということに触れていただけた。また私たち学生が未来について考えを共有する1つのきっかけになった。